

開催要項

1 名 称 「世界津波の日」2025 高校生サミット in 仙台

2 開催主旨

11月5日の「世界津波の日」は、津波の脅威と対策について理解と関心を深めることを目的に、2015年12月の国連総会において日本が提唱し、日本を始め142か国が共同提案を行い、全会一致で採択されました。翌2016年からは、世界各国の高校生が津波の脅威と対策について学ぶ場として、「世界津波の日」高校生サミットが開催されています。

世界では、多数の犠牲者・被災者を出す大災害が頻発しています。また、気候変動の影響と考えられる災害も発生しており、世界の持続可能な開発を進める上で、災害による被害の軽減は国際社会の重要な課題となっています。

こうした世界共通の脅威である自然災害の経験を通じて培った知見や技術、教訓を共有し、国境を越えた深い相互理解と強い連携により、防災・減災、国土強靱化に取り組む必要があります。特に地震をはじめとする災害の頻発国である日本の災害の経験や教訓、それに基づく防災の取組の知見は、世界の災害リスクの軽減に貢献することができると考えます。

仙台市は、豊かな緑や広瀬川の清流に象徴される自然環境と都市生活が調和する「杜の都」として知られ、市民社会と協力しながら環境保全に取り組んできました。一方で、仙台市は、地震や津波などの災害リスクがあり、1978年の宮城県沖地震以降は、建築物やライフラインの耐震化などの防災対策を進めてきました。

2011年の東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸部を中心に大規模津波による甚大な被害が発生し、多くの尊い命が失われましたが、未来を見据えた「より良い復興」を目指し、市民、企業、学術機関など、多様な主体が連携して取り組んできました。

2015年3月に仙台市において開催された第3回国連防災世界会議において、防災の国際的な指針となる「仙台防災枠組2015-2030」が採択され、世界の国々が2030年までにこれに基づいて防災・減災に取り組んでいくこととされています。仙台市は、将来の災害や気候変動リスクに備えた「しなやかで強靱な都市」を目指す「防災環境都市づくり」を推進し、その取組、知見や技術を国内外に発信することで、世界の防災・減災に貢献していきたいと考えています。

本年は宮城県・仙台市において、地震や津波などの自然災害による被害を最小化し、国土強靱化を担う将来のリーダーの育成と世界各国との交流を一層深めることを目的に、「世界津波の日」2025 高校生サミット in 仙台を開催します。

3 主催／共催（予定） 仙台市、仙台市教育委員会、宮城県、宮城県教育委員会、東北大学災害科学国際研究所、外務省、国連防災機関 神戸事務所

4 開催日 2025年11月27日(木)～11月28日(金)

5 会 場 東北大学 他

6 参加者 約100名（高校生及び引率者） 海外参加者 約50名 国内参加者 約50名

7 使用言語 英語

8 テーマ・分科会（予定）

(1) 全体テーマ

“世界とつながろう。津波から未来を守るため”

～東日本大震災の教訓と仙台防災枠組から、災害リスクと防災・減災を考える～

(2) 分科会のテーマ

(大規模災害を教訓としてより良い復興を考える)

災害からの復興を単なる復旧にとどめず、将来の災害に対してより強いまちを目指す「より良い復興」について考えます。

(防災における多様なステークホルダーの参画を考える)

災害に備えるためには、一人一人が適切に行動し、互いの力を結集することが重要です。様々な立場の人が防災に参加し、社会全体の災害に対するレジリエンス（強靱性）の向上につなげるための取組について考えます。

(教訓をつないでいくための伝承と災害文化を考える)

災害で命を失わないため、経験と教訓を未来へつなぐ伝承の取組、また、災害に備え・発生した災害を乗り越えていく力を向上してゆく災害文化の醸成について考えます。